令和３年度　江戸川区立篠崎中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○よく学び、深く考える生徒　○思いやりと規範意識のある生徒 ○すすんで体を鍛える生徒　○社会に貢献する生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校。 ○社会の一員としての責任を自覚した知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒 ○生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 学校、保護者、地域が一体となり生徒の健全育成に取り組み、落ち着いた学校環境が保てた。 ＜課題＞ 自己肯定感を高め、得意なことを伸ばし、津得意なことにも挑戦していく風土を醸成する。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・放課後学習教室を充実させ、学力向上を推進する。 ・連携教育プログラムを基にした授業に取組む。	・全校生徒の1割が受講できるようにする。 ・1学期にプログラムを見直し、2学期以降授業を実施する。	A	A	・全校生徒の9%が受講できるようになった。内容も充実させることができた。 ・近隣小学校と連携して、プログラムの見直しを実施し３学期に授業研究を予定している。	A	・学習に興味をもたせることはとても大切なので、これからも継続して欲しい。	・授業改善に向けた教員研修を全校で取組んでいく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 （読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・朝読書の実施。 ・読書活動の制作物の作成。 ・学校司書による蔵書の整理。	・全生徒が読書活動の成果物を作成する。1年生：本の帯。2年生：ポップの作成。3年生：読書新聞。 ・年度末までに蔵書の整理を行う。	A	A	・朝読書は毎日実施し、生徒の表現力が豊かになった。 ・成果物は2学期の学芸発表会で発表し、資料の収集や整理する力を育めた。 ・学校司書が定期的に学校を訪問し整理を行い、授業での活用を支援した。	A	・外に向けた発表等にも積極的に取り組んで欲しい。	・学習用端末を活用し、外部の機関とも連携していく。
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育の授業及び部活動で基礎体力を向上させる運動を実施	・都体力調査を実施し、昨年度の平均値を上回るようにする	A	A	・昨年度の体力合計点の平均値は、2年男子を除き全ての学年男女で向上した。	A	・健やかな体づくりをこれからも継続して欲しい。	・体づくりの意義を生徒自身に理解させ、取り組んでいく。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・オリ・パラノートを活用した授業を学期に1回実施。	・全生徒に継続して、オリンピック・パラリンピックに興味をもたせる。	A	A	・オリンピック・パラリンピックの学校観戦は中止となったが、応援グッズを活用し生徒に興味をもたせることができた。	A	・コロナで大変だったが、学校はよく頑張っていた。	・多様性を大切にする心を育成していく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・ALTを計画的に配置する。特別支援学級でも活用する。	・全学級に10時間ずつ年間を通してALTを配置する。	A	A	・計画的に実施しており、生徒も意欲的に取り組んでいる。	A	・国際貢献できる生徒を育成して欲しい。	・今後も計画的な活用をしていく。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・生徒会本部、委員会活動を充実させ、主体的な活動をさせる。 ・生活指導連絡協議会の内容を共有する。	・生徒会本部、各委員会で年間1回、生徒が企画運営する取組みを実施する。・月1回、協議会の内容を報告する。	A	A	・生徒会本部、委員会で工夫してスマイルプロジェクトを実施した。 ・協議会の内容を報告している。	A	・スマイルプロジェクトをさらに発展させる。	・生徒の主体的な活動を多く取りいていく
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援教育に関する校内研修会の実施。 ・しのたけルーム（エンカレッジルーム）利用に繋げるシステムをつくる。	・全教員が、特別な支援を必要とする生徒への配慮を実施する。 ・システムを1学期中につくりる。	A	A	・特別支援教育に関する研修会を1学期に1回実施した。 ・しのたけルーム利用に繋げるシステムを1学期中に作り、生徒が1名追加で利用できるようになった。	A	・特別支援学級、特別支援教室の取組は大変素晴らしい。	・特別支援学級と通常の学級との交流活動を充実させていく。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・年間3回の研修会の実施。	・全教員が、ICTを活用した授業を月に1回以上実施。	A	A	・教員の研修を2学期末までに2回実施し、3学期に1回実施予定である。ICT利用の授業は9割の教員が実施した。	A	・犯罪や被害に巻き込まれないように十分指導して欲しい。	・今年度同様計画的に取り組んでいく。
特色ある教育の展開	保護者・地域との連携	・地域ぐるみの教育活動や地域ボランティアを推進する。	・保護者、PTA、地域のボランティアへの積極的な参加を促す。	・全校生徒の2割がボランティア活動に参加する。	A	A	・PTAの「篠崎中オンラインフェスタ」では11の部活動と3つの有志が参加し、PTA活動に協力した。	A	・学校は大変協力的だった。	・今年度同様、連携を密にしていく。